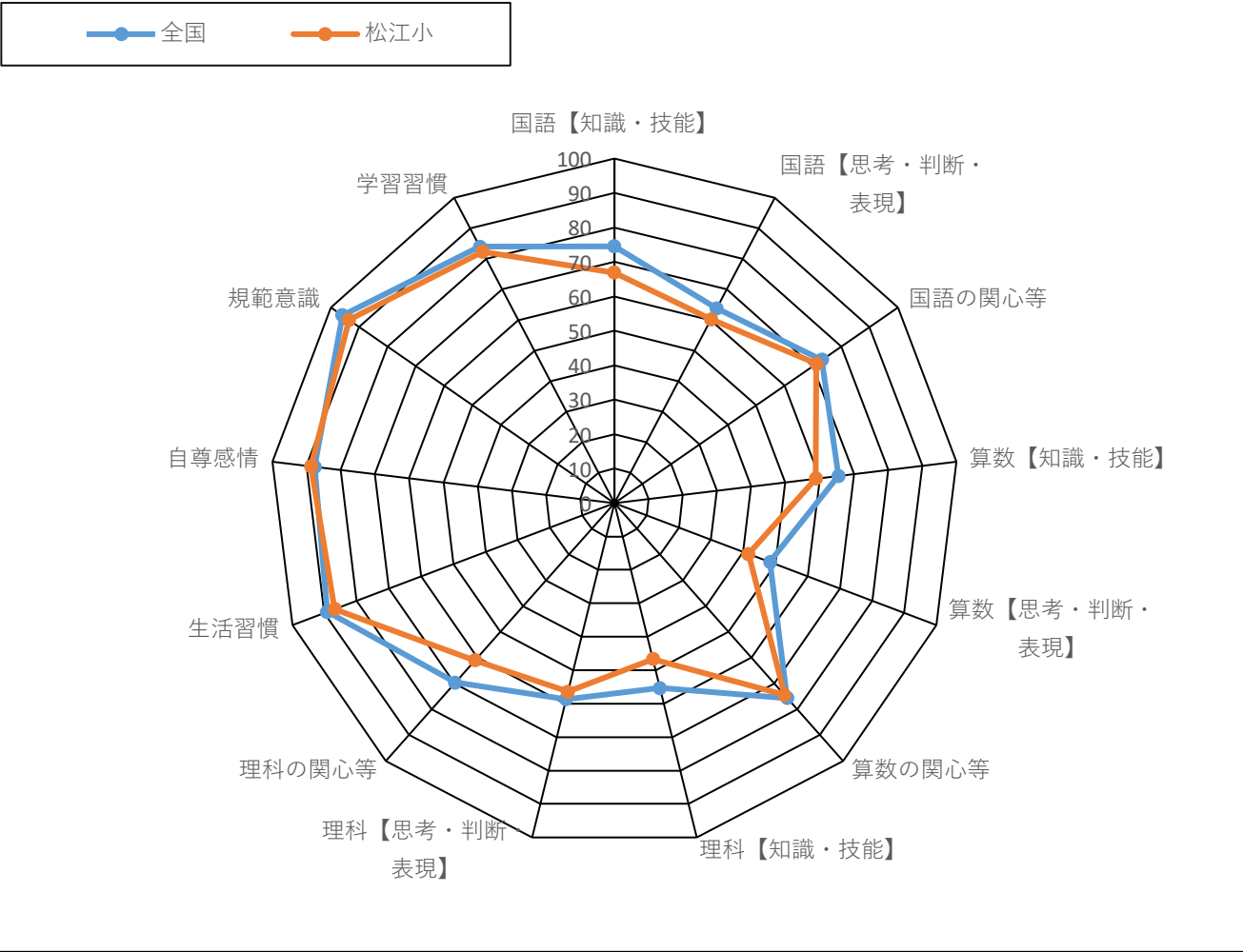


令和7年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の本校の様子



【考察】

結果から国語、算数、理科の3教科について、【知識・技能】が全国平均より大きく下回っていることがわかる。また、国語、算数の【関心等】がそれぞれ全国平均に近いことから、教科への興味や関心はあるのだが、知識の定着に結び付いていないことがわかる。

国語、理科においては【知識・技能】に比べ、【思考・判断・表現】が全国平均に近いため、自分の力で考えて答えを出す力は育ってきていると考えられる。

【授業改善のポイント】

どの教科においても【知識・技能】の定着を図ることが大切であると考え。国語では、言語活動の指導を丁寧に行うこと。算数では、現在の自分の理解度を常に明確にする。できないままにさせずに授業で行う練習問題の時間を大切にする。理科では、問題に関して、今までの学習や生活に結び付けて学習を進めることを意識させ、主体的に学べる授業づくりに取り組んでいく。また【関心等】の低さを補うために、科学的事象との出会いを大切にさせ、まずは興味を高める指導を行っていく。

また、本校で行っている「よむYOMUタイム」「学力アップタイム」の時間を有効に行い、既習学習の定着を図っていく。

【結果】

国語は、【知識・技能】【思考・判断・表現】ともに全国平均を下回る結果となった。特に漢字の書き取り、登場人物の行動や気持ちの読み取りについて課題があることがわかった。

算数では、【知識・技能】【思考・判断・表現】ともに全国平均を下回る結果となった。特に図形に関する考え方に課題があることがわかった。また分数の計算は全国平均を上回る結果となった。

理科では、【知識・技能】【思考・判断・表現】ともに全国平均を下回る結果となった。【思考・判断・表現】が全国平均に近い位置にある。

【家庭・地域への働きかけ】

保護者会、個人面談、家庭学習週間の機会を通して、学習習慣の大切さを共有するだけでなく、児童にあった課題に対して学習ができるように共通理解をしていく。